

---



---

 学 会 記 事
 

---



---

## 第30回新潟糖尿病談話会

日 時 平成13年5月12日(土)  
午後1時30分より  
場 所 パストラル長岡5F  
末広の間

## I. 一 般 演 題

## 1 頸動脈エコーの macroangiopathy に対するスクリーニング検査としての有用性

片桐 尚・涌井 一郎 (刈羽郡総合病院 内科)  
小林 勲 (同 放射線科)  
森田 哲郎 (同 放射線科)

動脈硬化性血管病変 (macroangiopathy) のスクリーニング検査としての頸動脈エコー検査の有用性を検討した。

【方法】対象は1999年3月から2000年6月までの当院受診中の動脈硬化性危険因子を有すると考えられる男性199名, 女性146名の計345名に対し, 7.5 MHzのプロープを用いてBモード断層法にて左右総頸, 内頸, 外頸動脈を観察し, プラークスコアを算出した。

【結果】プラークスコアは男女とも年齢とともに増加した。プラークスコアが5以上あり, 高血圧を合併していた例は動脈硬化性血管病変に起因した疾患を高率にもっていた。慢性腎不全 (糖尿病性腎症, 慢性腎炎, 動脈硬化) や脳血管疾患 (脳出血, ラクナ梗塞, 脳梗塞) においてはその etiology により頸動脈硬化病変に差異が認められた。

【結語】頸動脈エコー検査は病態の把握に有用な情報を提供し, かつ動脈硬化性血管病変 (macroangiopathy) のスクリーニング検査としても有用であると考えられた。

## 2 IA-2抗体とGAD抗体測定 of 臨床的意義

鴨井 久司・宗田 聡 (長岡赤十字病院 内科・糖尿病センター)  
阿部 英里・金子 晋  
金子 兼三・佐々木英夫

【目的】IA-2抗体とGAD抗体測定 of 有用性を検討した。

【対象と方法】1型糖尿病が疑われる糖尿病57名 (女33名, 男24名, 21~84歳) である。IA-2抗体はELISキット改変法 (BML測定) 測定キットを, GAD抗体はコスミック社製の測定キットを用いた。

【結果】57名中, IA-2抗体の陽性例は3例 (1.9, 3.0, 20.7 U/ml) (5.2%) で, GAD抗体陽性例は17例 (3.8~7,200 U/ml) (30%) であった。両者の陽性例は2例 (IA-2抗体3.0, 20.7 U/ml, GAD抗体48.7, 21.7 U/ml), IA-2抗体のみの陽性例は1例 (IA-2抗体1.9 U/ml) であった。症状発現から1年以上の罹病期間を有する症例では, IA-2抗体陽性例は皆無でGAD抗体陽性例は11例であった。

【考察】IA-2抗体測定は1年以内の早期発症の1型自己免疫性糖尿病を発見するのに有用であり, GAD抗体は緩徐発症型も含めた1型自己免疫性糖尿病を発見するのに有用である。

## 3 糖尿病リポド黄斑症に対する黄斑部小切開法硝子体手術

井海 雄介・佐藤 弥生 (済生会新潟第二病院 眼科)  
安藤 伸朗

黄斑部を含む領域に1乳頭径以上の硬性白斑の集積, 沈着を認めるものを糖尿病リポド黄斑症と定義し, そのような重症黄斑症に対し当科で黄斑部小切開硝子体手術を考案し, 手術効果を検討した。

【対象】2000年1月~11月に当院にてリポド黄斑症に対し, 視機能改善目的に黄斑部小切開法硝子体手術を施行し, 3ヶ月以上経過観察可能であった7例7眼。本術式は, 硝子体切除ならびに増殖膜処理を行なった後, 黄斑部に小切開 (1/4乳頭径) 作製, 液空気置換及び白斑の摘出後, 膨張性ガス (SF6) を眼内に注入, 術後腹臥位とする。手